

# 町小だより

令和2年  
12月21日  
No. 654  
御免町小学校

## 強くしなやかであること

校長 藤井 聡

新型コロナウイルス感染症に関する報道が連日続いています。あるところでは、「密」という文字が今年の漢字に選ばれるなど、日本中（世界中）が、この感染症の話題で溢れた1年でした。

学校も大きな影響を受けました。前年度から年度をまたいでの休校や分散登校をはじめ、学習や活動の中止、規模縮小で対応せざるを得ない事態となりました。

こんな年となりましたが、学校は歩みをとめませんでした。「明けない夜はない。」・・・今でも、そう信じてゆっくりと歩みを進めています。

「新型コロナウイルス感染症に負けずに教育活動を進めたい！」これは、全国の教育関係者の切なる願いであろうと思われまます。私はこの1年、『負けない』とはどういうことかを自問自答してきました。誰が考えてもわかるとおり、それは「強行して実施すること」ではありません。学校ですから、あくまでも教育活動を進めることが大切なのですが、その実施の方法や時期、創意工夫する点を熟考し、責任をもって決断しなければなりません。答えが見出せぬまま悶々とする日々の中で、私は、「学校の主役は子どもたちであり、子どもたちの資質・能力を伸ばすことができるのであれば、これまでのやり方に縛られる必要はない。」と腹をくくりました。すると、これまでの学習や活動の中で、教師の都合で行われていたことが意外に多いことが見えてきました。そこで、「形は変えても構わない」「規模は縮小しても構わない」「教師の都合ではなく主役である子どもの都合を優先する」というシンプルな視点で、教育活動を見直しました。

- 運動会は、1～3年生の部と4～6年生の部に分けて、午前中開催とする。しかし、内容は充実させ、子どもたちのエネルギーを爆発させるような種目・構成を考える。保護者の皆様との一体感を大切にし、保護者目線で運動会を再考する。
- マラソン記録会は、運動会と時期が近くなってしまったことと練習の際の「密」や「飛沫」の問題から、間隔をあけて実施できるものに変更する。ただし、持久力を付けさせたいということは譲れない。以上のことから、一定時間を跳びきる縄跳びに変更する。
- 保護者の皆様に、何度も学校に足を運んでいただくのは負担が大きいので、開催日を絵画展の日に設定し、「学級紹介」と合わせて御覧いただく。・・・等々です。

「感染症に負けない」とはどういうことかを考え続ける中で、私が見つけた発想法の極意は、「強くしなやかであること」でした。無駄をそぎ落とし、大切なことは何かをシンプルに考えることで、物事の神髄が見えてきます。そして、この神髄をブレることなく守ろうとするとき、柔軟であることが求められます。これからも「強くしなやかであること」を大切にして、町小は、前に進み続けます。これからも御支援・御協力にお願い申し上げます。 よいお年を！